

定例市長記者会見録

日 時：10月23日(月) 午後1時30分～1時55分

場 所：本庁舎6階 特別会議室

出席者：一宮市 中野市長、福井副市長

報道機関 中日新聞、読売新聞、NHK

本日の案件は四つです。

1番目は「大血管・下肢動脈・シャント治療センター（通称：血管センター）を開設します」についてです。

新型コロナウイルス感染症が終わったわけではありませんが、コロナ禍も目処がついてきた状況で、いろいろと新しい取り組みをします。

通称・血管センターを開設します。血管というと心臓が中心になり、心筋梗塞や心不全は循環器内科がメインで対応しています。一方、大血管・下肢動脈・シャント治療を行う場合に、循環器内科・血管外科・腎臓内科の三つの専門科が、外科的な治療か内科的治療を選択したり、組み合わせたりすることで、患者さんにとっていい結果に繋がります。このたび市民病院では11月1日から、三つの専門科が「大血管・下肢動脈・シャント治療センター」を開設し、専門科が垣根を越えてシームレスに連携して治療します。この取り組みは、西尾張地域で初めてスタートします。

皆さん、シャント治療についてお聞きになったことはありますか？私はなかったのですが、動脈と静脈を体の中で結びつけることで、透析をするのに十分な血液が流れるようにすることです。ここで少し、市民病院の医師から補足させていただきます。

【医師による説明】

シャント治療とは、透析患者さんが、透析をするために大量の血液を静脈から透析の機械に吸えるようにするための手術です。大血管には大動脈瘤、大動脈解離という二つの主な疾患があります。下肢動脈疾患は、下肢の血流が足りなくなり、脚の痛みによって歩行困難を起こしたり、重症化すると壊死を起こしたりする病気です。一見、脈絡のない三つの疾患ですが、どれも動脈硬化に起因する病態です。しかも、無症状で進行する動脈瘤や下肢動脈疾患に関しては、外科と内科が連携しないと見落としに繋がります。また、質の高い治療ができる医師が少ないため、多くの病院が苦手としている分野です。さらに腎臓内科・血管外科・循環器内科が充実している病院はあまりありません。こうした病態の患者さんは、透析患者さんが多いため、シャントのトラブルも管理しなければいけないので、まとめて治療することになります。いずれも全く関係のない領域のように思われるかもしれませんが、同じ人に起きやすい病状です。特にシャント治療は、一宮市周辺で得意としている病院はありませんが、当院は愛知県内でもかなりハイレベルな技術を持つ医師が揃っているため、他の病院では治療できない病態でも十分対応ができる環境が整っています。

透析患者さんは、2～3日分の体の老廃物を機械で吸い取る必要があります。普通は、一日5～6回の尿で、老廃物をゆっくり排出していますが、それを一度に2～3日分まとめて機械でろ過するには大量の血液を吸う必要があります。毎回動脈に刺せばたくさん血液が取れますが、動脈にあまり刺すと詰まってしまうため、静脈から大量の血液を採るために動脈と静脈をあらかじめ繋ぎます。それにより動脈血の勢いで静脈に流れて、そこから透析の機械で動脈の血流と同じ量を静脈から吸えるようになります。静脈は何度刺しても詰まることが少ないですが、それでもやはり週に3回刺し続けると詰まったりします。これをシャントトラブルと言います。多くの透析患者さんがこのトラブルに困っていて、透析ができなくなるため、それを治療するのがカテーテル治療です。その治療クオリティによっては、3カ月に1回から毎月治療し続けるという人もいます。それを私達がいろいろな医療機器で、シャントがなるべく長く使えるよう治療いたします。

【以上、医師による説明】

この分野で一宮市民病院は頑張っており、血管外科医が3名以上常勤で在籍するのは、尾張地域では一宮市民病院と日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、愛知医科大学病院、藤田医科大学病院の4施設だけです。センターと名前を付けますが、基本的には相談に応じる窓口を一本化するということで、新しく何か建物を建てたり、施設が増えたりするわけではありません。ただ、患者さんが初めて受診するときや、かかりつけ医から相談・紹介を受ける場合の窓口を一本化することで、循環器内科・血管外科・腎臓内科が連携して、よりスムーズに患者さんに対応して総合的に高品質な医療を提供できればと期待しています。

2番目は「“えっ 本物をさわれるの” ～病院のお仕事体験ツアーを開催～」についてです。

こちらも市民病院の事業で、病院のお仕事体験ツアーを、小学生を対象に開催します。市営の病院ということで、地域に開かれた病院づくりにできるだけ努めています。コロナ禍ではそれがなかなかできなかったわけですが、市民向けの講座や教室を復活させており、このたび12月9日（土）に市内在住の小学校4～6年生とその保護者の方20組40名に、本物の医療機器の操作体験を行っていただくお仕事体験ツアーを開くことにしました。

体験プログラムとして、内視鏡操作・X線撮影機器操作・超音波検査機器操作・薬剤分包機操作・心臓マッサージとAED操作講習を体験していただき、病院の仕事に親しみを持っていただきます。懂れている、やりたいなと思っているお子さんは結構いらっしゃると思いますので、併せて保護者の方、祖父母の方も一緒に同伴いただき、市民病院に親しみを持っていただければありがたいと思っています。

3番目は「『BISHU FES.』最新情報」についてです。

いよいよ11月11日（土）・12日（日）に予定されている『BISHU FES.』の最新情報です。

新しく追加で発表できるものをいくつかお示しします。銀座通りの会場装飾や、i-ビル3階シビックテラスでは尾西商工会や木曾川商工会がブース出店していただけるとのことで、繊維関係や特産の玉ねぎに関連する出店と聞いています。また、i-ビル1階コンコースでは、タフティングワークショップの開催が追加で決まりました。タフティングとは、生地に毛糸を特殊な工具で打ち込んで、ラグや小物などの立体的な作品が作れるもので、アートの要素もあり徐々に認知度を上げているようです。その他、フォトスポットの設置などが決まり、着々と準備が進んでいます。尾州ということで、この地域の繊維産業である生地・洋服が出发点ですが、それにとどまらず尾州でアートや、地域の食・お菓子・スイーツなどを幅広くPRできるようにということで準備を進めている段階です。

4番目は「一宮市プロモーション動画を募集します」についてです。

地方創生ということで国も旗を振っており、いかにして子育て世代をこの地域に誘致するかということで、5年前に30秒から3分ぐらいの市のPR動画を作りました。おかげさまで、市の公式YouTubeチャンネルでは一番アクセス数が多く、プログラミング教育（次世代の教育環境がある街）で17万再生、自然が豊か（都市近郊で豊かな自然と遊べる街）が13万再生、ダンスが盛ん（元気な子どもが育つ街）が13万再生と、市の公式YouTubeチャンネルのトップ3をそのPR動画が占めています。それももう5年が経ちましたので、新しく作ろうということで、プロにお願いする形でプロモーション動画を作り始めています。それとは別に、市民の皆さまが作った動画で一宮市のいいところをPRしてもらえたらという狙いです。テーマは三つあり、①が「まち」～まちの活力～、②が「ひと」～ひとの心のふれあい～、人と人が触れ合う情景です。そして③が「みどり」～まち・ひとを育む緑～、緑ということで木曾川や田園風景などの自然をイメージしています。三つのテーマのうちどれか一つを選んでいただき、30秒から1分程度の動画を作って送っていただくプロモーション動画のコンテストを行います。

採用させていただいた作品には3万円分のギフト券をお送りします。他にも公開した作品の中で”いいね”の数が一番多い作品に「いちみん賞」・ギフト券1万円分を用意しています。市民の皆さんの知恵を借りながらPRをしていきたいと考えています。

以上、本日の説明でございます。

質疑応答の概要

■大血管・下肢動脈・シャント治療センター（通称：血管センター）を開設します
（記者）「大血管・下肢動脈・シャント治療センター」という名称になるのですか？
（市長）はい、そうです。

（記者）東海エリアでは、このようなセンターはありますか？

（医師）大血管とシャントを含んでいない下肢動脈センター（足の血管センター）は、藤田医大病院が初で、8月に開設しました。私の知る限り、そもそも大血管・下肢動脈・

シャントの三つの組み合わせは多分全国でもありません。というのも、腎臓内科と血管外科と循環器内科が充実している病院自体が少なく、かつ三次救急は、ほぼ無いです。地域によっては血管外科が少ないところもあります。一方、足の血管が詰まって壊死する病気の治療は、カテーテル治療とバイパス手術があり、それらをバランスよくやるのがとても大事です。下肢の治療は難易度がかなり高く、しかも外科と内科が連携してやらなければいけません。また、そういう症状の人たちは透析の患者さんに多いので透析のシャント治療も必要になり、大血管・下肢動脈・シャントの三つを組み合わせることが極めて重要だと思っています。

(記者) 三つの専門家がチームで連携するのは西尾張初とのことですが、実際はもっと珍しいことなのですか？

(医師) 三次救急で血管外科が3人以上常勤していて、腎臓内科と循環器内科もあるのは愛知医大病院、藤田医大病院、日赤名古屋第一病院と一宮市民病院くらいです。そもそも一宮市民病院以外は、大血管・下肢動脈・シャントの治療を組み合わせたセンターをつくっていないので、ある意味、愛知県初です。

(記者) センターの開設によって一番変わるのは、どういうところですか？

(医師) 腎臓内科と血管外科と循環器内科が一つの科(センター)で連携することで、一番良い治療を選択できるということです。外科と内科の両方で同じ治療ができるときは、どちらかの科がバラバラに決めていくとどちらかに偏ってしまうため、各科から集まった専門医が一つの科(センター)で決めることはとても大事です。もう一つは症状が無くて見落としがちなケースも、複数の異なる視点があれば発見しやすくなり、総合的に患者さんを治療できるということです。このため、三つの組み合わせは非常に相性が良く、そこを重視してセンターをつくったことはかなり珍しいと思います。

(市長) この地域の医療機関は充実していますので、それぞれ特長を伸ばして切磋琢磨し、PRしていきたいと思います。

■ “えっ 本物をさわれるの” ～病院のお仕事体験ツアーを開催～

(記者) 内視鏡の体験は、人形に内視鏡カメラを入れてやるんですか？

(職員) 体験の詳細については、内視鏡チームがいろいろ工夫を凝らして、より良い形で興味を持っていただけるよう考えているところです。

■ 『BISHU FES.』最新情報

(記者) 東京ガールズコレクションは有名な人がたくさん来るそうですが、改めて『BISHU FES.』に期待することはありますか？

(市長) おかげさまで11月11日(土)の夕方に開催する『BISHU COLLECTION produced by TGC』のチケットは、発売とほぼ同時に売り切れてしまいました。もちろん、このイベント自体はYouTubeで配信されますので、チケットを購入できなかった方はそ

らでお楽しみいただければと思います。

一宮市ゆかりの人をキャスティングしていただいています。SKE48の石黒友月さんと野村実代さんは2人とも一宮市出身です。AKB48・NGT48の元メンバーで、最近小説を出された北原里英さんも一宮市出身で、地元ゆかりのあるスターたちが凱旋してくれることを私も楽しみにしています。もう一つは、尾州・尾張の国というと、歴史好きな男性にはなじみが深い印象がありますが、これを契機に全国に発信して、若年層・女性にも尾州・尾張の国を広められるイベントにしたいと思い、最後の準備に力を入れています。

(記者)『BISHU FES.』は3年間続けるんですか？

(市長)一過性のものではなく継続していきたいと思い、経済界をはじめ関係各所と話をしています。

■一宮市プロモーション動画を募集します

(記者)採用された動画作品を市のホームページなどで流す考えはありますか？

(市長)市の公式YouTubeチャンネルに載せます。また、市公式ウェブサイトや、一宮駅コンコースの七夕ビジョン、駅の外に設置したデジタルサイネージなどで採用した作品を使わせていただこうと考えています。